

神田小の誇りは「明るい笑顔」と「元気なあいさつ」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



学校だより

No. 9 さいたま市立神田小学校
令和6年 1月9日発行 TEL (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

大変とは 大きく変わる時

校長 米玉利 優子

2024年が始まりました。子どもたちの元気なあいさつが校舎に響き、学校に命が吹き込まれました。本年も教職員一同、「すべては神田の子の希望をはぐくむために」の合言葉を胸に真摯に努力してまいります。保護者の皆様、地域の皆様、本年もどうぞよろしく願いいたします。

2学期の終業式「冬休み、頑張っている人をたくさん見つけましょう。」という宿題を神田小学校全児童に出しました。私たちの生活を支えるためにお正月も多くの方が働いていること、自分の夢に向かって努力し続けている高校生や大学生がたくさんいること等に気づいてほしいという思いでしたが、心が痛む悲しいニュースにあふれた年明け。この宿題をしながら、様々なことを感じた子どもたちもいるかもしれません。能登半島地震で被害を受けながら、今を懸命に生きている方々、悲しみを抱えている多くの人を支える自衛隊、消防、警察や役所の方々、医療従事者や介護士…高速道路を走ると資源物資を運ぶトラックや自衛隊の車を多く目にしました。思わず「気を付けて…お願いします。」と声に出しながら、あの日を思い出していました。

2011年3月11日に起きた東日本大震災。さいたまスーパーアリーナに避難をしてきた方々に何かできることをしたいと思い、飲食物を配るお手伝いをさせてもらいました。とても十分とはいえ少量のパンと飲み物を渡すと、81歳になるという女性がパンを半分にしてこう言うのです。「あなたもおなかですいているでしょう。皆のためにありがどうね。半分食べなさい。」と…人間の強さと美しさをこれほどまでに痛感した日はありません。辛いことに会うたび、あの女性の優しい笑顔思い出します。一生忘れない、忘れてはいけない人に出会えました。

2016年の熊本地震の際には、教育委員会に勤務していたこともあり、熊本県へお手伝いに行かせていただきました。その時にも自分たちより手伝いに来た私たちを心配し、一緒に頑張ろうねと皆で励まし合いながら「人は苦しいとき、その人の本性が出るものだからね。それが人間性でしょ。私ね、頭は悪いけど人間性は良いのよ。」「それが一番大事よね。」そう言って、皆で笑い合っていた姿に、溢れる涙を止めることはできませんでした。人間性とは何か。どう育成するのか。教師として生きる自分の責任の重さと未来を担う子どもたちと共に過ごせる幸せを強く感じ、「人間性は良いのよ。」と胸を張って言える人を育てることが、熊本で頑張る皆さんへの恩返しになるのだと強く感じたことを覚えています。大変なときこそその人の真価が問われるのだと痛感した出会いでした。

2024年も神田小学校にかかわる皆様の笑顔があふれる1年になるよう祈ります。でも、辛いことや苦しいことに会うこともあると思います。そんな時こそ「大変とは 大きく変わる時」と思い、強く前進し続ける力を子どもたちに育成していきたいと思います。そして「大変」を乗り越えるのは1人ではできないからこそ、時にぶつかり合いながら、協力し励まし合い、人を大切に想う心や「人間性」を育てる学校にしていきたいと強く願い、教職員一同、精進してまいります。

保護者の皆様、並びに地域の皆様には、大きく変わる子どもを見守りながら、今月も変わらぬ御支援、御協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。能登の皆様へ想いを寄せて。